

日本死の臨床研究会 近畿支部
秋季教育セミナー Web開催



Web研修会
申し込みは裏面参照

日程：2022年9月3日(土) 14:00～17:00

多様な価値観の中での対人支援とは
～もしバナゲームで対話について改めて考える～

講師：白山宏人(医) 拓海会大阪北ホームケアクリニック
iACP公認もしバナマイスター

内容：コロナ禍から見たアドバンス・ケア・プランニング
総合ディスカッション（現場からの報告から考える）
もしバナゲーム・ワーク

対象：医師、看護師、介護福祉士、MSW、市民など

Webでの事前申し込みが必要です。裏面参照ください

参加費：近畿支部会員：500円 近畿支部非会員：1000円

お問い合わせ：日本死の臨床研究会 近畿支部

担当：白山宏人（大阪北ホームケアクリニック 内）

FAX:06-6350-0468 E-mail:shiro-okhc@healthcarenet.jp

Web研修会 Peatixでの事前申し込みが必要です

もしバナゲームとは？

『人生の最期にどうありたいか』、誰もが大切な事とわかっていても、縁起でもない話として、避けてしまうかもしれません。

もしバナゲームを通して、あなたの余命が限られた状況になったと想定される時、自分にとって大切な価値観について考え、友人や家族に願いを伝え、理解してもらおうきっかけづくりになります。

1セットには36枚のカードが入っています。そのうち35枚には、重病の時や死の間際に「大事なこと」として人がよく口にする言葉が書いてあります。たとえば、「どのようにケアして欲しいか」、「誰にそばにいて欲しいか」、そして「自分にとって何が大事か」、という内容です。

今回のテーマ

さて、支援する私達は患者や家族から語られる多様な価値観についてきちんと受け止めることができているでしょうか？自分の価値感やルールを押し付けていたり、説得になっていないでしょうか？

支援する我々もまず自身と対話し、自分の価値観の傾向やあり方について知っておく必要があります。

新型コロナ禍において医療介護の現場では様々な苦労や葛藤があったと思います。特に人生の最終段階における話し合いでは、流行前とは異なった状況での話し合いも多々あったかと思います。

今の現状を参加の皆さまと振り返り、共有し、もしバナゲームを通して、皆様の現場での対話や支援に生かしていきたいと思います。

参加申し込みは下記のURLから申し込み下さい

<https://peatix.com/event/3323516/view?k=01ba63fd8ff6157025c8ce24a28d14f43c64a813>

右のQRコードも利用可

返信等の案内が無い場合は
近畿支部事務局までご連絡
下さい。

問い合わせ先：日本死の臨床研究会近畿支部

担当：白山宏人

FAX:06-6350-0468

E-mail : shiro-okhc@healthcarenet.jp

